

まだまだ知らない串間がたくさん！

くしま再発見

綿毛に変わり始めるオキナグサ (絶滅危惧種)



草原を黄色に彩るウマノアシガタ

母と子の絆で紡がれる命

春と言えば都井岬の春駒！例年、15〜20頭ほどの元気な子馬が誕生します。馬は約11カ月もの妊娠期間があり、出産の際には誰の手も借りず、母馬が自分一人の力で産み落とします。無事に生まれた時の喜びは格別なものですよ。

生まれたばかりの子馬の蹄（ひづめ）には、まるでお餅のような白いカバーが付いています。これは蹄餅（ていぺい）と呼ばれる角質のかたまりで、子馬の蹄が母親の産道を傷つけないための配慮です。母親へのいたわりを持って生まれてくるのです。子馬は、生まれてすぐに力強く立ち上がろうとしますが、そのころには蹄餅も外れて、縁起物のお供えのように4つのお餅が残されます。

生後2週間頃になると、子馬は母親の新鮮なフンを食べる「食フン」行動をします。これは、草を消化するための微生物を母から子へ与える特別食です。腸内細菌の種類は、その環境に暮らす馬によって異なるともいわれ、都井岬で生きていくために先祖代々、母から子に受け継がれてきた特別な菌なのです。都



母親の新鮮なフンを選ぶ子馬

井岬では、こうした命の営みが数百年も繰り返されています。生まれたばかりの子馬の体重は15キロほどですが、1カ月もすれば大人と同じ草も食べ始めるようになり、体重も倍以上の30〜40キロまで成長します。しかし野生状態の生存率は厳しく、この子馬たちが来年の満1歳を迎えるまでには、およそ30〜40%が亡くなってしまいます。かわいそうですが、この厳しい自然環境によって、本当に強い馬の遺伝子だけが後世に残されていくのです。

都井岬ビジターセンターでは、お客さまを安全に野生馬の近くまでご案内して、都井岬の魅力を満喫できる『野生馬ガイドツアー』を行っています。この春は、江戸時代から続く命の営みに触れてみませんか？

問い合わせ先 都井岬ビジターセンター 電話：0987-76-1546

「短歌」串間短歌会選

- ときとしてロボット歩きするわれを遺影の息子笑つて見てゐる
西小路 坂本 不二子
- 葦だちの大根白菜ぬれそぼつふるふる揺るる白花黄化
古川 野邊 俊子
- 子や孫と毎夜七時に会話する携帯電話の声待ち遠し
ゆうゆうの森 吉田シヅ子
- 今の世の進化するもの素晴らしくつきつき変わるに驚くばかり
ゆうゆうの森 山下 シゲ子
- 前歯抜け痛々しさに医者に行く我が身支えて九十三年
ゆうゆうの森 川邊 一子

短歌の投稿は 清水しづ子さんまで(☎7215546)

うたごよみ

12の季節

「俳句」あさひ俳句会選

- 牡丹の咲きしと告げむ亡き母に
仲町 矢野 欽子
- 夕闇に白木蓮の溶け入りぬ
上町一 神戸 和子
- 野ばらの根死ぬも生きるも崖つぶち
仲町 藤原 淑子
- よく見ればなるほど良き名士筆かな
越ヶ谷 白石 方子
- 人影の声高まりて野火走る
上町一 又木 順子

俳句の投稿は 又木順子さんまで(☎7210159)

市長コラム

令和の時代を生きる

毎春、満開に咲く桜を見ると、春の訪れとともにしみじみと日本文化の美しさを感じさせられます。4月1日に新元号「令和」が発表され、これからの新時代に期待が膨らみます。思い返してみれば日本は、昭和から平成にかけて多大なる苦難・困難を乗り越えてきました。

昭和の63年間は、悲惨な戦争とその悲しみを乗り越え、戦後復興と高度経済成長やアジア初の東京五輪開催などを経

て、人々の所得が増加し、物質的に豊かになり、生活水準が向上しました。

平成の30年間は、IT革命が起こり高度情報化社会となり、今日では携帯電話、スマートフォンを1人1台持つ時代となりました。情報を手軽に知ることができたり、発信・共有できたりと、さらに進化を遂げた社会となった一方で、阪神・淡路大震災や東日本大震災、日本各地での台風や豪雨被害など災害が多く発生した時代でもありました。このように昭和から平成にかけての激動の時代が終わわり、令和の時代を迎えます。



串間中学校入学式

4月に小学校、中学校、高校の入学式に臨みましたが、希望に満ちあふれた子どもたちの姿がとても頼もしく感じました。彼らこそこれからの令和の主役となる人財です。「日々の精進」と「感謝の心」を常に忘れず、社会に貢献する大人の仲間として成長されるよう期待を込めて、「頑張れ」とエールを送りたいと思います。これから一緒に良い令和の時代を築いていきましょう。